

単元名

四季が丘 未来づくり プロジェクト ～ふるさとのために 自分たちにできること～

【単元の概要】

地域の歴史や人口の変化を調べることによって、まちのよさや課題に気付いた子どもたちが、ふるさとの発展のために自分たちが考えたことを話し合う。地域の方の思いや取組を知り、それらを受けて、自分たちにできることは何かを再考し、考えたことをまとめ、発信し、実行する。

【連携諸機関・人物】

四季っ子応援団
四季が丘見守り隊
四季が丘市民センター

◆単元の目標

身近な地域や社会から「ふるさとのために自分たちにできること」を見出し、仲間や地域の人たちと協力して活動することを通して、まちに住む人々やその取組の素晴らしさに気づき、地域の一員として、それらを大切にしようとする態度を育てる。

◆学習活動の実際（全50時間）

学習活動	他教科等との関連
<p>〈自分達のまちの歴史や課題について調べ、考える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季が丘のまちの概要や人口の移り変わり等を調べ、さらに住みやすいまちにするために考えたことを話し合った。 ・「住みやすい四季が丘にするためにアンケート」を行った。 (調査対象：本校の児童) <p>〈自分たちが考えた「2050年の四季が丘」について整理する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果などから気付いたことを思考ツール（座標軸）やグラフに整理・分析した。  <p>住みやすいまちにするために必要なものは何かなあ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を分類し、住みやすいまちにするための取組や工夫、それが必要な理由を考えた。 → 四季が丘には、大型店舗や名所が必要！ <p>「今のままでいい。」 この言葉の重みを考えよう！</p> <p>〈地域の方とまちの未来について考える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住みやすいまちにするために考えたことを、四季が丘に住んでいる第一世代の方へ伝える。 ・第一世代の方のふるさと四季が丘への思いやまちの取組を聞く。 → 四季が丘の住みやすさは、ものの豊かさではなく、心の豊かさ・絆づくりから成り立っている！ <p>〈課題の設定〉</p> <p>ふるさとのために自分たちにできることを考えよう！</p>  <p>〈「まちの取組」に関する情報収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような情報が必要か、情報収集の方法について話し合った。 ・情報収集のために、四季っ子応援団の方に取材活動を行った。 	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する力」を「アンケート結果から課題を見いだす活動」に活用させた。

<p>〈自分たちにできることを考え、発信する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を整理し、課題解決に向けて今の自分たちに取り組めることは何かという視点から分析した。 ・調べてわかったことや整理・分析したことをまとめ、学習発表会等においてプレゼンテーションを行い、地域に発信した。 ・実行に向けた計画を立てた。 <p>〈校内・校外での活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動、まちの行事（とんど）、校内・町内清掃活動についての呼びかけを行った。 ・とんど、町内の清掃活動へ参加した。 ・自主的にあいさつ運動・校内の清掃活動を実施した。 <p>〈振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを行い、活動における自分の在り方やふるさとへの思いについてまとめる。 	 <p>〈プレゼンテーションの様子〉</p>  <p>〈取り組んだ活動〉</p>	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」において、「伝えたいことに合わせてプレゼンテーションの構成を決め、必要な情報を作成する学習」を「意図が伝わるように情報を選んで話の構成を工夫し、プレゼンテーション資料をつくる活動」に関連付けた。 ・「提案の良さが伝わるように聞き手を意識してプレゼンテーションする学習」を「聞き手に意図が伝わるように話の構成や資料の見せ方を工夫して話す活動」に関連付けた。
--	--	---

【児童生徒の感想・振り返り】	
<p>・ぼくは、地域に「ゆめタウン」みたいな大型ショッピングモールがあったり、東京スカイツリーみたいな名所があったりしたら、住んでいる人々にとって住みやすく、愛着をもつことができると思っていました。特に、四季が丘にはすぐ買い物に行けるという便利さが必要だと思っていました。でも、谷増さんの話から「四季が丘は今のままでいい」という言葉を聞いて、ハッとしました。4年生で地域の防災について学んだ、「まちの絆づくり」の大切さについて思い出しながら、今の自分たちがまちのためにできることについて考えました。地域の見守り隊のみなさんと一緒にあいさつ運動をすること、町内清掃に積極的に参加すること、地域の行事に積極的に参加することを通して、自分が学校生活でどのようにあいさつしているか、掃除をしているか、下学年と関わっているか等を見直すことができました。これから、四季が丘も少子高齢化という問題に直面します。中学生になるぼくたちにどんなことができるのか、ふるさとのために自分たちにできることを考えていきたいです。</p>	

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】	【児童生徒の変容】
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと住みやすいまちにするために考えたことを整理・分析するために思考ツールを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出た意見を比較しながら整理することができ、たくさんの情報をまとめることができたようになった。同じような状況において、思考ツールを積極的に使おうとする姿が見られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」の学習と関連付け、伝えたいことに合わせ、構成を決め、必要な情報を整理しながらプレゼンテーションを作成させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことをわかりやすくするために、図・表・グラフ等を取り入れたり、要約したりするなど、表現力の高まりが見られた。また、アニメーションや写真を効果的に取り入れ、聞き手の興味をひく資料をつくることのできた。
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちにできること」を「継続」・「感謝」・「自力」という3つの視点で整理することで、活動内容を焦点化できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの視点は活動のねらいにもなり、常にこの視点に立ち戻りながら活動を継続していくことができた。

【今後に向けた「改善点」】
<ul style="list-style-type: none"> ・主に、2学期からの実践として位置付けていたのだが、活動を充実させるためにも、1学期から学習活動を展開させていく。他教科・領域等との関連を検討しながら、カリキュラムをデザインしていきたい。